

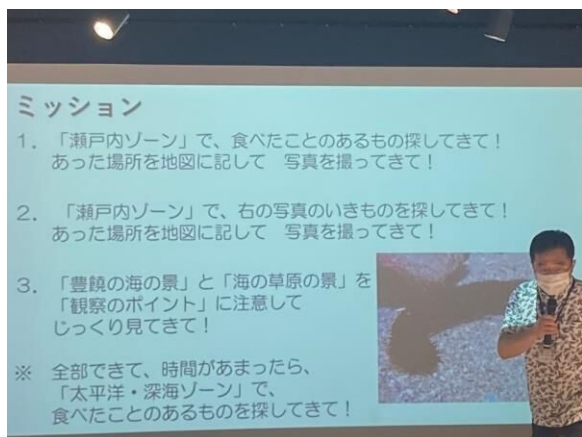
四国水族館で学ぶSDGs講座 開催しました！



- 日時 令和4年6月5日（日）9：30～11：30
- 会場 四国水族館
- 講師 松沢 慶将 氏（四国水族館館長）

6月5日（日）に、四国水族館にて、「四国水族館で学ぶSDGs講座」を開催し、子どもと保護者あわせて16名が受講しました。講師には、四国水族館の松沢慶将館長を迎えました。本講座は、海の生き物の観察を通して、きれいで豊かな海について考えることを目的として開催しました。

はじめにレクチャールームで講義があり、講師から、SDGs（持続可能な開発目標）について子どもたちにも分かるように説明があり、みんなで取り組まないと達成できない目標であるとお話がありました。そして、四国の魅力のひとつである水景の多様性についての説明と、瀬戸内海の特徴の紹介がありました。その後、観察のポイントとなる3つのミッションが与えられ、受講者はそれぞれ、館内の展示の見学に出発しました。



与えられたミッションをもとに、瀬戸内ゾーンの海の生き物の観察を行いました。四国水族館では四国の水景をテーマに展示されており、食卓に並ぶ魚たちも多く展示されていました。受講者は、写真を撮ったり、観察のポイントで気づいたことをメモしたりするなど、いつもとは違う視点で生き物を観察するとたくさんの発見があり、観察を楽しんでいる様子でした。

その後、レクチャールームに戻り、まとめと振り返りを行いました。食べたことがある生き物の発表では、受講者から「アオリイカ」、「マアナゴ」、「マイワシ」、「アコヤガイ」などの魚介類が挙げられ、講師から生き物の特徴などの解説もありました。

「豊饒の海の景」では、「マアジ」、「アカエイ」、「メバル」など、たくさんの種類の生き物を見つける事ができました。海の底では、珪砂(けいさ)とよばれる花崗岩などが細かくなってできた砂が見られ、ベージュのような明るい色をしていました。



「海の草原の景」では、稚魚がアマモ（海草）に身を隠すようにして暮らしていました。アマモの表面をよく見ると赤い藻で覆われ、光合成によってできた小さな泡の粒（酸素）が付着していました。海の底は砂と泥であることから、アマモが生息する場所は波が穏やかな場所であることが分かりました。講師から、人間は食べ物だけでなく真珠など海から様々な恵みをもたらって生活しており、豊かな海にするためには海と森の間で栄養をバランスよく循環させることが必要であるとお話がありました。



また、日本のSDGs達成度について、17ある目標のひとつである「海の豊かさを守ろう」という項目で最低評価の「深刻な問題がある」に位置付けられているとお話があり、受講者は大変驚いた様子でした。

最後に、かごしま水族館の「沈黙の海」という何も生き物が入っていない水槽の紹介があり、「海の恵みをもたらいつづけるために、みんなが今できることは何だろうか？」という問いかけがありました。受講者からは講座の後、「ミッションを通して興味をもって展示を見ることができた」、「説明が子どもたちにも分かりやすかった」という声がありました。